

## 第19話

いつも私のコラムをご覧頂きましてありがとうございます!

私には今24歳のひとり息子がおります。以前のコラムにも書かせて頂いたのですが息子の誕生は決して計画的な事ではなく、夫婦で創業して4年経った頃、隣のお店が出られたので壁をぶち抜いて広さが倍となりこれから妻にもバリバリ働いて貰わなければならない矢先に妊娠してしまったのです。そんなわけで妻には出産ぎりぎりまだ働いて貰い出産後は6ヶ月で復帰して貰うことになりました。

当然保育所に子供を預けなければならないわけですがなかなか保育時間と予算が合わずはじめのうちは平日と土曜日曜は違う保育園に預けてました。生後6ヶ月の赤ちゃんを2カ所の保育所に預けると言う罪悪感、預ける時に泣きわめく息子に本当にすまないと言う気持ちでいっぱいでした。熱がでて預かって貰えない事も多くそんな時は仕方がないのでお店に連れて行ってスタッフルームに寝かせて営業していましたが赤ちゃんが1日中おとなしくしてくれるはずもなく泣きわめく息子を仕事の手を止めてあやさなければならぬこともあります。時にはお客様が外に連れ出して面倒をみててくれる事もあり本当にありがたかったです。そのうち尼崎に良い保育所が見つかり1カ所にする事は出来たものの朝8時に預けて夜遅い日は迎えに行くのが21時と今考えてみると本当に息子をほったらかして仕事中心の私たちだったと思います。そして5歳の時当時住んでいた大阪から西宮に引っ越しして来た事をきっかけにまだまだ働く母親にお願いをして仕事を辞めて貰い息子の面倒をみて貰う事になり一段落したつもりでしたが…

小学生になってから反抗期に入った息子は学校でも色々と問題を起こし、先生からの呼び出しを受けるのは日常茶飯事でしたが中学生になってからはどんどんぐれはじめとうとう警察のお世話になる事も多々あり、何とか入れた高校も事件を起こし中退… そうは思いたくないけれどやはり幼少時代にほったらかしにしていたことが祟ったのか、そう思われる得ない状況でした。途方にくれていた私たちでしたが、京都で美容室を手広くしている友人が面倒をみたると言ってくれて17歳の何も出来ない息子を住まいの段取りもしてくれて引き取ってくれたのです。色々な事があったものの私と同じ美容師の道で頑張ってみると言う息子に期待し、家財道具も揃えて京都へ引っ越し見習い美容師としての暮らしが始まったのですが…

(次号に続く)

